

来年度「市制発足70周年」を前に 特集2

(1)旧・月灘村の土佐清水市加入への議論

現在の大月町は、当時、川内村と月灘村と別れていた。月灘村では川内村と合併するか、土佐清水市に参加するかで村民を二分する議論となっていた。昭和29年(1954)7月8日の住民投票では、土佐清水市への参加賛成が849票、反対が836票と僅か13票差であった(全1,718票、うち無効33票)。小才角・大浦・才角・檜ノ浦等の土佐清水市に近い沿岸域では、賛成が多く。春遠等の離れている地域では反対が多かった。

この住民投票を受けて、16日の月灘村議会では、土佐清水市への参加の議決について賛成7票、反対7票と二分された。浅井議長の議決により賛成となったが、反対派は納得せず、村政に混乱が生じた①。結果的には、川内村と合併し、現在の大月町としての道を選択している。

(2)都市計画事業と国・県道整備

《第一、二次都市計画(中心市街地の形成)》

市としての要件は地方自治法に示される。次に略述する4要件である。

- (1) 人口3万人以上(当時)
- (2) 中心市街地区域内にある戸数が人口の6割以上
- (3) 商工業等都市的業態に就く者とその世帯員が人口の6割以上
- (4) その他都市的要件を具えている

町村合併促進法により誕生した新市を既存都市と比較しその都市性を検討した鈴木栄太郎『都市社会学原理』(有斐閣、1957)によれば、土佐清水市制当初の段階では、全人口は満足したが、ほか3要件は満足していない②。拡充が必要であった。係る事業が都市計画事業である。

市制発足と年を同じく着手された第一次都市計画事業を皮切りに、現在まで三次に渡る都市計画事業が行われた。まず、第一次と第二次都市計画を解説する。当計画は「土佐清水市建設計画」の基本方針に基づく。

《新市建設の基本方針》

土佐清水市はその地勢地形条件よりして、これが産業形態は水産業を主体とし、これに続いて農業林業が主となる。

高知県西南端の産業集散の基地として、各種資金を導入し産業の振興を図り、主要産物の増産、工場誘致に努め水産物加工品、特殊産物紅茶等の生産輸出に重点を置くと共に、足摺岬を中心とする渭南公園の観光施設を充実し、外来観光客の増加に努め、新水産観光都市としての発展を図るものとする。このため市内県道の中員拡張、産業観光道路の新設、都市計画事業の完遂、諸港湾の整備を急ぐと共に、清水一中村間県道短縮を図るため伊豆田坂トンネルの完成、国鉄海岸線の早急なる建設を要求する。

又将来清水地区の干拓事業を実施し、広汎なる敷地をつくり工場を誘致し各種産物の製品化を図ると共に市営の大市場を経営する③。

《基本方針》にあるように、旧清水町清水地区を中心市街地として、土佐清水市の近代的都市へと発展するため、主要産業の増産推進、工場の誘致、観光施設の充実がめざされた。この目標の前提として、交通便利性の向上や敷地不足の解消といったインフラ整備が第一の課題となったのである。

(3)第一次・第二次都市計画の概要

《第一次都市計画》

期 間 昭和 29 年 11 月認可～昭和 40 年完了

事業形態 市単事業

総事業費 1 億 1400 万円

事業内容 大正町（現中央町通り）以北を整備。モリ山、天神山、赤毛山の三山を切り取り、幹線街路を新設（幅員 12m）する。この幹線道路は、現在の西町公園前の交差点―サニーマート間の道路を指す。また、都計街路（幅員 8m）を計 7 本と区画街路（幅員 4～8m）を敷いた。山の切り取りで発生した土は越浜の埋め立てに利用した。

《第二次都市計画概要》

期 間 昭和 41 年認可～昭和 50 年完了

事業形態 国と県の補助事業

総事業費 10 億 3300 万円

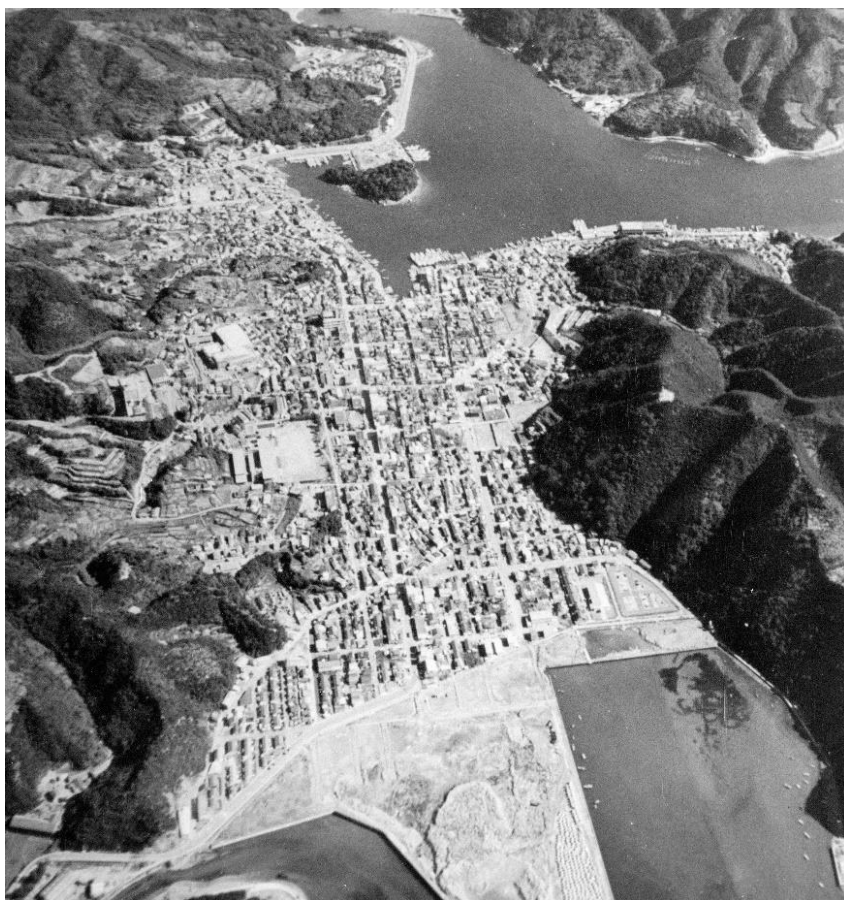
事業内容 一次都計地より南、水道山、貝塚墓地、旧役場山の三山を切り取り、街路を新設（幅員 16m・小江町―市場町間の道路）した。同時に区画

整理も並行して行った。発生した土は第一次同様に越浜の埋め立てに充てた。また、三崎―竜串間、旭町―浦尻忠魂墓地間の道路を拡幅改修した。

現在の市街地には、元いくつかの山が存在し、モリ山と水道山(荒神駄場)は、両者が頭を突き合わせたように南北からせり出し、清水―越間の交通を狭くしていた。現在の幸町と寿町の辺りであり、道路は現在の商店街を含む通りが一本走っているのみで、あとは山道だった。第一、二次各都計はこれらの山を切り取り、平地面積を拡大し、宅地や街路を敷いて区画整理を行った。発生した土は越浜の埋め立てに充てられた④。当時、越前町と小江町の西側町界より西方は砂浜であった。現在も道路の軌道にその名残をみることができる。

また、生活環境面の整備として、上水道の拡張(昭和33年、清水)、ゴミ焼却場(同37年、以布利)、し尿処理場(同38年、浦尻)、消防庁舎(同45年)が設置された。

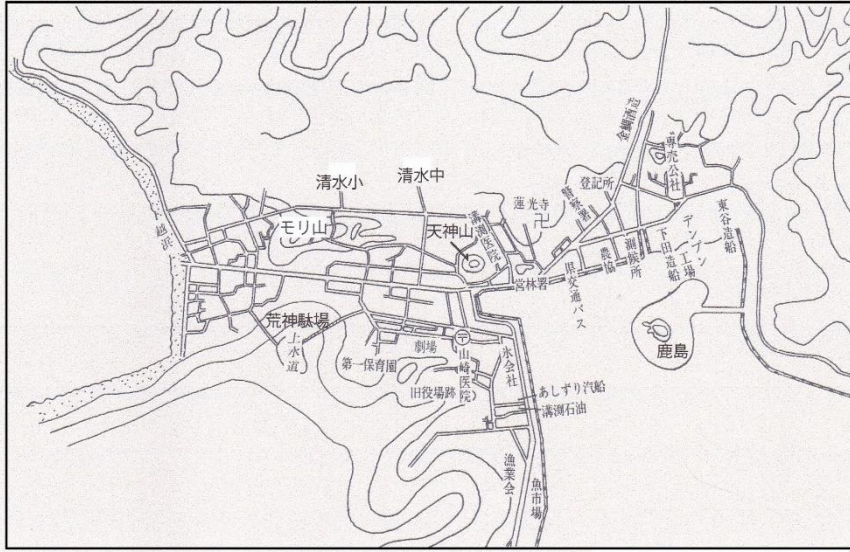
その他文化施設は、中央公民館(昭和40年、幸町)、中央公園(同42年、幸町)、市民体育館(同46年、天神町)、市民文化会館(同59年、寿町)、西町公園(同年、西町)がそれぞれ完成した。また、岡山県の不動産会社によって尻貝山が切り拓かれ、宅地が造成された。現在の「グリーンハイツ」である。



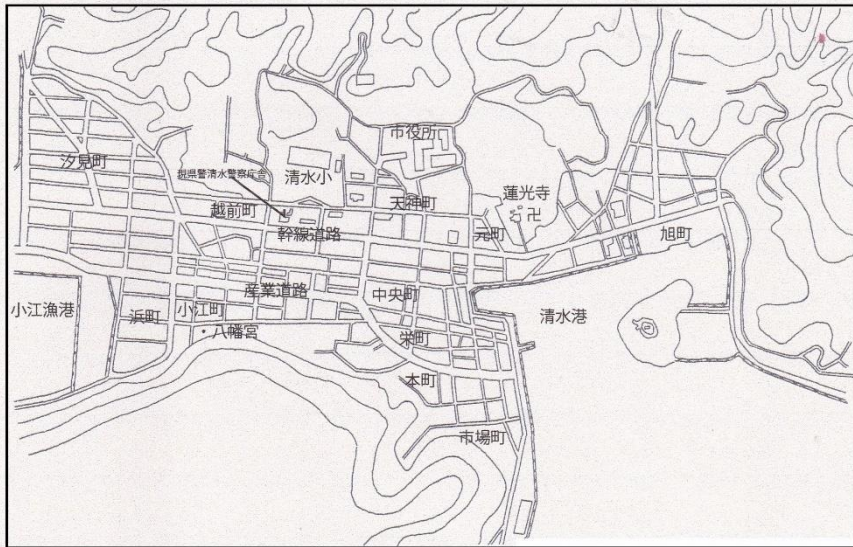
第2次都市計画を撮影した航空写真(土佐清水市所蔵)

「鹿島」東部の埋め立てが完成している。越地区の埋め立てが進められ、西町の土地が造成されている。

ほぼ現在の市街地が形成されている。



第一次都市計画前の土佐清水市街地(『土佐清水市史上巻』1192 頁引用)



第二次都市計画終了時の土佐清水市街地(『土佐清水市史上巻』1194 頁引用)

註

- ①『高知新聞』昭29年7月1日記事。
- ②鈴木栄太郎『都市社会学原理』有斐閣、1957年、432～435頁。
- ③中村春利「七 近代・現代」(『土佐清水市史 上巻』土佐清水市、1980年、1175頁)より引用
- ④③に同じ、1195頁。

次号へと続く